

「再編統合の対象となり得る公立・公的医療機関（再検証対象医療機関）」の公表と当院の対応について

令和元年 9 月 30 日

国立病院機構宇都宮病院

厚生労働省はこのたび診療実績データの分析に基づく「再編統合の対象となり得る公立・公的医療機関（再検証対象医療機関）」を公表し、当院はその対象の1つに挙げられました。このため、地域の皆様には「宇都宮病院は患者が少なくて経営不振なの？」「宇都宮病院は効率の悪い医療をしているの？」などと思われるかもしれませんが、それは事実と異なります。その理由や現状、今後の対応については下記の通りです。

1 診療内容と分析指標（ものさし）が異なること

当院は急性期（がん、2次救急など）・回復期（地域包括ケア病棟）・慢性期（重症心身障害、神経難病など）の3領域をカバーするケアミックス病院ですが、今回の分析は主に急性期総合病院の指標（がん、心血管疾患、脳卒中、救急など）に基づくものであり、当院の慢性期医療や回復期医療の診療実績が全く評価されていません。つまり急性期医療は当院の診療機能全体の一部にすぎないため、その診療実績が（急性期だけの病院に比べて）少ないのはある意味当然（当たり前）なのです。

2 地域から求められている医療を行っています

当院のある宇都宮医療圏において、重症心身障害病棟（100床）と地域包括ケア病棟（60床）は当院のみであり、いずれも90%以上の高い稼働率を維持して地域の医療ニーズに応じた診療を実践しています。

3 今後の対応について

当院は地域の関係者で構成される地域医療構想調整会議において、地域における当院の診療機能の必要性や地域医療への貢献度などを丁寧に説明させて頂くつもりです。

以上のような経緯ですので、地域の皆様には地域医療に関する正しいご理解をよろしくお願い申し上げます。

地域医療構想の実現に向けて

令和元年9月27日
医政局

1. 地域医療構想の目的は、2025年に向けて、地域ごとに効率的で不足のない医療提供体制を構築することです。地域医療構想の実現により、限られた医療資源をそれぞれの地域で真に活用し、次の時代に対応した医療を構築することができると思っています。
2. 地域医療構想の実現に向けては、関係者のご理解・ご協力の下、これまでも地域で議論が積み重ねられてきましたが、さらに取組を進めていく観点から、今回、高度急性期・急性期機能に着目した客観的なデータを国から提供し、改めて、それぞれの医療機関に対し、今後の医療機能のあり方を考えて頂くことといたしました。
※客観的データについては、「地域医療構想に関するワーキンググループ」における議論に基づくものです。
3. 今回の取組は、一定の条件を設定して急性期機能等に関する医療機能について分析し、各医療機関が担う急性期機能やそのために必要な病床数等について再検証をお願いするものです。したがって、必ずしも医療機関そのものの統廃合を決めるものではありません。また、病院が将来担うべき役割や、それに必要なダウンサイジング・機能分化等の方向性を機械的に決めるものでもありません。
4. 今回の分析だけでは判断しえない診療領域や地域の実情に関する知見も補いながら、地域医療構想調整会議の議論を活性化し議論を尽くして頂き、2025年のあるべき姿に向けて必要な医療機能の見直しを行っていただきたいと思っています。その際、ダウンサイジングや機能連携・分化を含む再編統合も視野に議論を進めて頂きたいと思っています。
5. 今後、地域の医療提供体制の確保に向け、病院のダウンサイジングや統廃合が必要と地域が判断する場合には、国としても必要な支援等を行ってまいります。